

北九州市SDGs協議会 第1回会議 会議要旨

- SDGsの大事な概念の一つが、統合性ということである。常に全体を見ながら取り組むんだということが大切。
- 地域活性化や産業界との連携をもう少し強く出して、金融機関や企業の参加が街の経済的活性化につながるということは明確に言っていただいているのではないかな。
- 近い将来、全部について具体的にターゲットを掲げるでしょうが、インディケーターまで作る必要があるだろう。
- SDGsクラブは、企業や金融機関など、まちの活性化に最も力を持っているプレーヤーを市民になじんでもらうことを意識した組織、活動にしてほしい。
- 今、若者が流出している。出ていく若者は住みやすいから留まるのではなく、住みたいところに行ってやりたいことをやる。「住みやすいまち」だと、ちょっと年齢層が高い。若者層を取り込むにはもう少し「住みたいまち」というところを出さないと。
- SDGsの聖地としてはどうか。ツアーとしてSDGsを見られる仕組みがある、気に入ったら住むなど。
- 優先的なゴールから漏れてくるゴールが、17のうちいくつか出てくる。優先されない理由をどのように市民に説明するかが大切。
- 優先の定義をきちんとして、ここをポイントとして全体を変えるのだというようなことを説明したほうがいいのではないかな。
- 推進体制を維持していくためには、ビジネス上のメリットや、市民や大学のメリットなどを明確化していかないと活動が続かない。そういったところを提示するのが重大な課題ではないかな。
- 教育といっても、社会づくりという意味ではもちろんだが、環境であったり、ビジネスであったり、経済も環境もどちらも教育に入ってくる。ほかにも、重なる部分がたくさんある。
- SDGsクラブでこんなことをやりたいと誰か手を挙げることにより、子どもホスピスのように日本に何個かしかないようなものを誘致できれば、SDGsの達成に向けて北九州市のブランド力が上がっていくような気がする。